

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修
担当教員			
金子 雅文			
金3、4			
添付ファイル			

科目の概要	我々の生活の中で、日常、身近に見たり使ったりしている物や、生命活動に関与している化学物質について、化学の立場から見て考える。また、身の回りの化学物質の安全性について、考える力をつけることを目指す。
授業の内容	<p>1回 生体内の物質とその働き 糖質</p> <p>2回 生体内の物質とその働き 脂質</p> <p>3回 生体内の物質とその働き アミノ酸、タンパク質</p> <p>4回 生体内の物質とその働き 酵素</p> <p>5回 生体内の物質とその働き 核酸</p> <p>6回 生体内の物質とその働き 核酸とタンパク質合成</p> <p>7回 生体内の物質とその働き ビタミン、ミネラル</p> <p>8回 食と物質 味物質</p> <p>9回 食と物質 におい</p> <p>10回 生活と物質 セッケンと合成洗剤</p> <p>11回 生活と物質 歯の構造と虫歯</p> <p>12回 天然有機化合物 テルペノイド</p> <p>13回 天然有機化合物 アルカロイド、フラボノイド</p> <p>14回 天然有機化合物 微生物が作り出す物質、抗生物質</p> <p>15回 まとめ まとめと演習 定期試験</p>
学習到達目標	生命活動に関与している物質の化学構造を理解する。食を楽しむうえで重要となる味や臭いのもととなる物質の化学構造を知る。身の回りの物質とその安全性について考える力を身につける。
授業の方法	化学I、および有機化学で学んだ知識を発展させ、物質を化学の視点でとらえ、現象を科学的に把握、理解する能力を磨くことを目指す。応用的な側面に照準を合わせた内容とする。
成績評価の方法	授業への参加態度（20%）、小テスト（20%）、期末テスト（60%）を総合して評価する。
教科書・テキスト	プリントを配布し、講義する。
参考書	国本浩喜著「暮らしの化学」（裳華房） 大場好弘著「身のまわりの化学」（化学同人）
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	授業の前に教科書の該当する範囲に目を通し、知らない語句や物質について調べる。授業後は理解できなかった項目や興味を持った内容について自主的に調べる習慣を身につける。
履修上の留意事項	授業時の取り組みや学習態度（他の受講者への迷惑となるような行為）によっては、講義室からの退出を命じることがある。さらに平常点の成績評価の割合を大きく超えて減点することがある。
オフィスアワー	昼休み